

ロボット新戦略（抜粋）

2015年1月23日～ロボット革命実現会議提言～

第4節 ロボット実証実験フィールドの整備

（1）背景

- 実際に現場で使われるロボット開発には、社会に実装される最後のステップにおいて、使われる状況と同様の条件下での実証実験・最終調整が必要。
- ロボットの開発や現場への導入を加速させるためには、技術開発や導入に係る支援はもとより、ロボット開発現場と活用現場の橋渡しとなる実証実験フィールドが有効。

（2）現在あるロボット実証フィールド等の例

（略）

（3）海外におけるロボット実証実験の実施に活用できる施設の例

（略）

（4）ロボット実証実験フィールド等の整備に係る考え方

- ロボット革命の実現について、民間企業や大学が独自実施する実証活動をサポートするとともに、必要に応じ、既存施設の増強や、新しい機能を有する施設の構築を進めていく。
- ロボット革命を担う国内外の挑戦者達が集まり、その求める実験環境を的確に提供することにより、安全性の検証と具体的な使い勝手の改善につながるような実績を挙げ、将来にわたりイノベーションの拠点となり続けるような体制を目指すことが重要。

【実証実験フィールド整備において留意すべき事項】

1. 特区制度の活用など、ロボット実証実験のための十分な空間と、既存の制度に縛られずに実証実験できる自由が確保されていること。
2. パブリックセクターに一定程度のニーズがある施設であり、民間の需要も十分に見込めること
3. そのロボット実証実験フィールドを用いた検証結果が、規制緩和、公共調達、認証取得等で活用できるなど、事業化を後押しするような具体的かつ制度的な効果が位置づけられていること
4. 大学や自治体等、運営主体が明確かつ安定的に存在すること

こうした取組を更に推進し、フィールドロボットを中心とした実用化の動きを加速化するため、新たな実証フィールドとして、福島県に「福島浜通りロボット実証区域」（仮称）を設け、陸上・水中・空中のあらゆる分野におけるロボット開発の集積拠点とすることを目指す。